<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>タイトル</td>
<td>ケニス・ボールディング著『映像・生活および社会における知識』</td>
</tr>
<tr>
<td>著者</td>
<td>山田 雄三</td>
</tr>
<tr>
<td>雑誌</td>
<td>一橋論叢 第36巻 第2号</td>
</tr>
<tr>
<td>部門</td>
<td>部門</td>
</tr>
<tr>
<td>発行日</td>
<td>1959-06-01</td>
</tr>
<tr>
<td>タイプ</td>
<td>部門誌</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td>部門誌</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ2</td>
<td>部門誌</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ3</td>
<td>部門誌</td>
</tr>
<tr>
<td>ページ4</td>
<td>部門誌</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/3709">http://doi.org/10.15057/3709</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>

"HERMES-IR"  
Hitotsubashi University Repository
映像生活および社会における知識

山田 雄三

ここで「映像」というのは、人間の生活の維持や発展に関する何らかの形で伝えられる情報を指し、それが都合の良いもの、不都合の良いもの、何らかの形で人間の生活を支えるものとして理解される。つまり、映像は、人間が形成したものであり、それは元々は人間が自らの世界を理解するための工具として生まれたものである。映像は、人々が自分自身を理解し、他の人間を理解するための手段であり、社会の形成を支える重要な役割を持っている。したがって、映像は、社会の形成を理解するための重要な要素であると考えられる。

映像は、人間が形成したものであり、それは元々は人間が自らの世界を理解するための工具として生まれたものである。映像は、人々が自分自身を理解し、他の人間を理解するための手段であり、社会の形成を支える重要な役割を持っている。したがって、映像は、社会の形成を理解するための重要な要素であると考えられる。